附属幼稚園の教育(10)

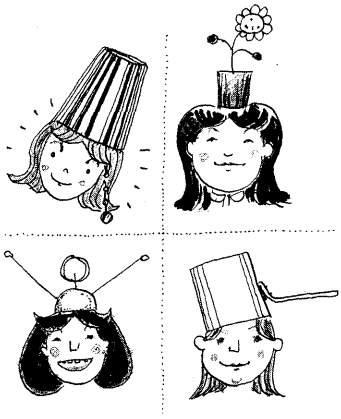
三学期の保育

村石　京

三学期はこの年度の最終学期です。お正月の休みが終わって、三学期の始まる日を迎えました。子どもたちみんなが楽しく園生活に入り、充実して安定した日々が送れるようにと心を配りたいものです。

冬休みは比較的日数も短くて、すぐ日が過ぎてしまいますので、休みあけといっても夏休みが終わった後の二学期初めのようなとまどいのような感じは見られなくて、まるで昨日の続きのように友だちと遊び出したり、話しあったりしている様子が見られます。これは一つには、友だち同士のつながりが以前と比べてずっと強くなり、親しみも深くなってきていることも大きな理由と言えると思います。

日数としては短かったのですが、冬休みの間には家庭の中で様々な体験がありました。例えばク



リスマスのことや、新しい年を迎える仕度をしたこと、そしてお正月のこととか、旅行に行ったことなど、いろいろな事柄が子どもたちの話題に上ってくることもあります。生活の中の体験として、気づいたことや嬉しかったことなどを話し合ったり、絵に画いたりすることも表現を伸ばしていく上での良い機会だと思います。遊びとしては、お正月の遊びとして、かるた・すごろく・羽子板・こま・凧等といったものを教材として保育室に用意しておくと、子どもたちは喜んで遊びはじめます。家庭での経験や遊びが幼稚園とつながり、そして友だち同士で遊べるというのは望ましい良いことだと思います。更に年齢によって無理がなければ、かるた遊びをすることから発展してかるたの共同製作をして遊んだり、トランプ遊びをしたりするのも楽しいゲーム遊びでしょう。また、風のある日に凧をつくって凧上げ大会をしたりするのも三学期らしい嬉しい遊びの一つです。

こうした日本古来からの伝統的なお正月の遊びを教材として取り入れていき、自然に遊びの中で体験し、味わっていくことは、遊びを拡げるだけでなく、そこには日本人としての意味深いものもあると思います。

また寒い冬の朝も元気に戸外に飛び出した子ども達は、霜柱を見つけたり、貯水槽に氷が張っているのを発見して、喚声を上げたりしています。そして更に雪が降って積もったりした日には、雪だるまつくりや雪合戦など雪遊びに夢中な一日が持てます。こうした冬の季節の遊びは自然からの贈り物であり、自然からの恩恵を充分味わっていくとともに、一方では冬の寒さや、厳しさなどを知ったりすることも大切な経験となります。このような体験をしながら、社会や、自然への関心を拡げていったりするのも、三学期らしいあそびの特徴とも言えると思います。

子どもたちの様子は、こうした新しい遊びをど

んどんと取り入れていく吸収力が充分備わっています。そしてまわりのことに関心を持ち、自分も積極的に参加してやってみようという気持ちも伸びてきています。大勢で遊ぶ楽しさがわかってきたり、いろいろな遊びを組みたてたり、ルールを理解して遊ぶようになるというのも大きな育ちと言えると思います。また友だちとのかかわりが深くなってきて、相手の良さを認めたり、友だちの言うことをよく受け入れたり出来るようになるとともに、自分自身も友だちの中で自己発揮することも次第に出来るように育ってきています。こうした子ども同士の関係を見守りながら、子どもが考えたことが実現出来るように必要な材料などを用意したり、手助けしたりしながら、遊びが長続きしてじっくりと遊び込めるように配慮していきたいと思います。また更に保育者としては、子ども同士の関係がより深く育つように心を配るとともに、子どもの自分からやろうとする気持ちを大切にし、子どものやり出したことが充分行えるような経過時間の保障をすることも大切です。こうした心づかいや励ましの言葉、そして援助などによって、日常生活の中で子どもたちが満足感や達成感を持てるようにしていきたいと思います。

また一方で、身のまわりのことや生活習慣上のことは、新しい学期を迎えたこの時期、そして今年度の最後の学期としての三学期には、一人ひとりの子どもの中にどれだけ身についたものとなっているかを見直してみることも必要です。自分の持ち物や遊びに使った遊具や教材などを定まった場所に片づけることなどが習慣として定着出来るようになっているかとか、用具や材料などを大切に取り扱うことが出来るようになっているかなどを再確認し、まだ身についていないものがあれば促しながら進めていくようにしたいと思います。殊に三歳児などでは、冬の時期の身のまわりの仕度としてオーバーや手袋等のぬぎ着などもありま

す。まだ一人では出来ない部分は保育者は手をかしながらも、少しずつ自分でやるように励まし、促していくことも大切です。

三学期は寒い季節のことであり、室内での生活がどうしても多くなりがちですが、遊びが単調にならないようにとの配慮も必要です。新しい材料を用意することとか、遊具の配置がえを行ってみたりすることで、刺激となって新しい遊びの展開が見られたりする場合があります。またグループでの遊びが多くなると、ごっこ遊びが盛んになり、役割をとって遊ぶことも多くなってきます。役割の取り決め方とか、遊びの構成などに、グループのみなの意見が反映されていくように、遊びに一緒に参加したりしながら、友だち関係によく留意していくことも大切です。

そして友だち関係も比較的円滑に育ち、級の中に少し落ちつきやゆとりも感じられるようになってきたこの時期には、子どもたちの心の中により豊かな情感を育て、情操陶冶をはかっていく上で、よいお話を聞かせたり、絵本を読んだり、よい音楽を聴かせたりする機会などを多く持つようにしていくことも大事なことと言えるでしょう。そういった教材面の準備や配慮などを多くして、級の中によい雰囲気をつくり、子どもの心が感性のある豊かな情緒を持ったものへと育っていくようにと願いたいものです。

このような教師としての努力や、心配りは、級の子どもたちに大きく影響してくるものがあります。三学期はいろいろな面で、年齢にふさわしく、一層の充実した日々が持てるようにありたいと考えています。

（お茶の水女子大学附属幼稚園）